大学院（博士前期課程）

ディプロマポリシー

・科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、専門技術者として自己実現と自己責任の意識を持った自律できる資質と、総合的な視点から問題解決を主導できる資質を身につけ行動できる。
・社会基盤の整備や都市環境の創造と保全に必要な都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を修得している。あわせて、観察力、理解力、考察力、説明能力等の高度な実践能力を修得し、これらを活用して問題解決に当たることができる。
・研究成果の発表等を通じて、技術者としてのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を修得すると同時に、グローバル化時代に対応できる高度な国際感覚・国際性を身につけ活動できる。

配当単位数合計	11単位		5 単位		29 単位		12 単位	4 単位	8 単位	37 単位				106 単位
M2 M1 通年	グローバルテクノロジー特論a 1	グローバルテクノロジー特論b 1	● 建築・都市デザイン演習 2											＜専門分野＞ ＜全科目＞
M2 M1 後期	応用数学特論 2	材料・デバイス開発実務特論 3	● 文献調査Ⅱ 1				空間デザイン学特論 2		海岸工学特論 2	コンクリート構造特論a 2	複合・合成構造特論a 2	● 必修科目		22 単位
			建築職能論 1				社会資本計画学特論 2		土構造特論 2			※ 修了要件に含めない科目		
							都市・地域計画特論 2		地盤工学特論 2	コンクリート工学特論 2				
									河川工学特論 2	維持管理工学特論 2				
M2 M1 建築学コース 集中					建築インターンシップⅠ(意匠系) 4	建築設計実習Ⅰ 4				建築構造実験 2	建築構造解析演習 2			68 単位
					※ 建築インターンシップⅡ(意匠系) 3	※ 建築設計実習Ⅱ 3				建築インターンシップⅠ(構造系) 4	建築構造設計演習 2			
					※ 建築インターンシップⅢ(意匠系) 2									
後期					建築設計演習Ⅱa 1	建築論特論Ⅰ 1	地区計画特論a 1			コンクリート構造特論b 1	建築振動特論 2	構造計画特論 1		
					建築設計演習Ⅱb 1	建築論特論Ⅱ 1	地区計画特論b 1			コンクリート構造特論c 1		構造力学特論b 2		
	応用物理学特論 2	外国語特論 2	● 文献調査Ⅰ 1		建築設計演習Ⅲ 1	建築工事監理実習 1	建築計画特論Ⅱa 1							
							建築計画特論Ⅱb 1							
前期					建築設計演習Ⅰa 1	建築設計マネジメント 1	建築計画特論Ⅰa 1	建築環境特論Ⅰa 1		建築材料特論a 1	鋼構造特論b 1	耐震設計特論a 1	空間構造特論 2	
					建築設計演習Ⅰb 1	建築設計特論a 1	建築計画特論Ⅰb 1	建築環境特論Ⅰb 1		建築材料特論b 1	鋼構造特論c 1	耐震設計特論b 1		
					建築史特論Ⅰ 1	建築設計特論b 1		建築環境特論Ⅱa 1		木質構造特論a 1	複合・合成構造特論b 1			
					建築史特論Ⅱ 1			建築環境特論Ⅱb 1		木質構造特論b 1	複合・合成構造特論c 1			
分野	数理科目 / 学際科目 / 共通横断		専門横断	分野	歴史・意匠分野		デザイン・計画分野	環境分野	河海・地盤分野	構造・材料分野				年間履修上限単位数 なし

カリキュラムポリシー

・社会基盤のデザイン・計画、都市・地域空間の創造と保全に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・建設材料の特性を理解し、それらを利用した橋梁をはじめとする様々な構造物の計画、設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・社会基盤施設を支える地盤や土構造物の設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・河川・海岸にかかわる防災、利用、環境のための計画、調査分析、設計、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。

アドミッションポリシー

都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤施設ならびにそのシステムの整備や維持管理にかかわる学理と技術を、建築学を含む柔軟で幅広い視野で学びかつ深く考え研究することに情熱を有し、持続可能な社会の発展に貢献するデザイナー、プランナー、エンジニアを養成する。

〈求める人物像〉
・都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を習得し、深く考え研究するために必要な基礎的知識を有している人
・都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
・専門分野を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲のある人

学部

ディプロマポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。
≪工学部≫
1）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】
2）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】
3）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】
4）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】
5）社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】
6）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動力する。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】
◆注：「3）」を明細化したものが、各学科のDPとなる
≪都市デザイン工学科≫
都市デザイン工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。
（A）総合的な視点からの基礎学力を修得し、広い視野と確かな判断力を身につける。【基礎学力・判断力】【基礎学力・判断力】
（B）科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、自己実現と自己責任の意識を持った自律できる技術者としての資養を身につける。【技術者倫理】【技術者倫理】
（C）数学、物理学、化学、地学、生物学などの自然科学および情報の基礎的学問を身につける。【自然科学・情報処理】【自然科学・情報処理】
（D）都市デザイン工学科の専門領域（共通系、デザイン・計画系、構造系、コンクリート・材料系、地盤系、河川・海岸系）の内容を修得し、社会基盤の整備や都市および地球環境の保全に関する専門知識と技術を身につける。【専門知識・技術】【専門技術・知識】
（E）協調性、指導力、計画的に作業を実施する素養を養うとともに、観察力、理解力、考察力、説明能力を身につける。【実践力】【実践力】
（F）専門的な知識や技術を多角的・総合的に用いて社会が要求する問題を把握・整理し、解決するデザイン能力ならびにプレゼンテーション能力を身につける。【問題解決・プレゼンテーション能力】【問題解決・プレゼンテーション能力】
（G）社会人として基本的なコミュニケーション能力とマナーを身につける。【コミュニケーション能力】【コミュニケーション能力】
（H）グローバル化時代に対応できる国際感覚・国際性を身につける。【国際性】【国際性】
（I）社会要請の変化に対応して、生涯学び続ける姿勢・自己学習の習慣および問題を解決する能力を身につける。【生涯自己学習】【生涯自己学習】
◆注：【 】はディプロマ・サプリメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示

| 配当単位数合計 | | | | | | | | | | |

大学院（博士前期課程）

ディプロマポリシー

・科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、専門技術者として自己実現と自己責任の意識を持った自律できる資質と、総合的な視点から問題解決を主導できる資質を身につけ行動できる。
・社会基盤の整備や都市環境の創造と保全に必要な都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を修得している。あわせて、観察力、理解力、考察力、説明能力等の高度な実践能力を修得し、これらを活用して問題解決に当たることができる。
・研究成果の発表等を通じて、技術者としてのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を修得すると同時に、グローバル化時代に対応できる高度な国際感覚・国際性を身につけ活動できる。

M2 M1 通年

配当単位数合計：9単位

- ● 必修科目

M2 M1 後期

配当単位数合計：5 単位

- 応用数学特論 2
- 材料・デバイス開発実務特論 3
- ● 文献調査Ⅱ 1
- 建築職能論 1

M2 M1 前期

配当単位数合計：26 単位

- 応用物理学特論 2
- 外国語特論 2
- ● 文献調査Ⅰ 1

専門横断

- ● 建築・都市デザイン演習 2

共通横断

M2 M1 都市デザイン工学コース 後期

配当単位数合計：12 単位

- 空間デザイン学特論 2
- 社会資本計画学特論 2

M2 M1 都市デザイン工学コース 前期

- 都市・地域計画特論 2

M2 M1 建築学コース 集中

- 建築インターンシップⅠ(意匠系) 4
- ※ 建築インターンシップⅡ(意匠系) 3
- 建築インターンシップⅢ(意匠系) 2
- ※ 建築設計実習Ⅰ 4
- ※ 建築設計実習Ⅱ 3

M2 M1 建築学コース 後期

- 建築設計演習Ⅱa 1
- 建築設計演習Ⅱb 1
- 建築設計演習Ⅲ 1
- 建築論特論Ⅰ 1
- 建築論特論Ⅱ 1
- 地区計画特論a 1
- 地区計画特論b 1
- 建築計画特論Ⅱa 1
- 建築計画特論Ⅱb 1

M2 M1 建築学コース 前期

- 建築設計演習Ⅰa 1
- 建築設計演習Ⅰb 1
- 建築史特論Ⅰ 1
- 建築史特論Ⅱ 1
- 建築設計マネジメント 1
- 建築工事監理実習 1
- 建築設計特論a 1
- 建築設計特論b 1
- 建築計画特論Ⅰa 1
- 建築計画特論Ⅰb 1
- 建築環境特論Ⅰa 1
- 建築環境特論Ⅰb 1
- 建築環境特論Ⅱa 1
- 建築環境特論Ⅱb 1

分野

- 数理科目
- 学際科目
- 共通横断
- 専門横断
- 歴史・意匠分野
- デザイン・計画分野
- 環境分野
- 河海・地盤分野

構造・材料分野

配当単位数合計：37 単位

- コンクリート構造特論a 2
- 複合・合成構造特論a 2
- コンクリート工学特論 2
- 維持管理工学特論 2
- 建築構造実験 2
- 建築構造解析演習 2
- 構造計画特論 1
- 建築インターンシップⅠ(構造系) 4
- 建築構造設計演習 2
- 構造力学特論b 2
- コンクリート構造特論b 1
- コンクリート構造特論c 1
- 建築振動特論 2
- 建築材料特論a 1
- 建築材料特論b 1
- 木質構造特論a 1
- 木質構造特論b 1
- 鋼構造特論b 1
- 鋼構造特論c 1
- 複合・合成構造特論b 1
- 複合・合成構造特論c 1
- 耐震設計特論a 1
- 耐震設計特論b 1
- 空間構造特論 2

海洋工学特論 2

- 土構造特論 2
- 地盤工学特論 2
- 河川工学特論 2

年間履修上限単位数なし

カリキュラムポリシー

・社会基盤のデザイン・計画、都市・地域空間の創造と保全に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・建設材料の特性を理解し、それらを利用した構梁をはじめとする様々な構造物の計画、設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・社会基盤施設を支える地盤や土構造物の設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・河川・海岸にかかわる防災、利用、環境のための計画、調査分析、設計、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。

アドミッションポリシー

都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤施設ならびにそのシステムの整備や維持管理にかかわる学理と技術を、建築学を含む柔軟で幅広い視野で学びかつ深く考え研究することに情熱を有し、持続可能な社会の発展に貢献するデザイナー、プランナー、エンジニアを養成する。

〈求める人物像〉
・都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を習得し、深く考え研究するために必要な基礎的知識を有している人
・都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
・専門分野を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲のある人

ディプロマポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。
≪工学部≫
1）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】
2）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】
3）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】
4）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】
5）社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】
6）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動力】
◆注：「3）」を明細化したものが、各学科のDPとなる
≪都市デザイン工学科≫
都市デザイン工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。
（A）総合的な視点からの基礎学力を修得し、広い視野と確かな判断力を身につける。【基礎学力・判断力】【基礎学力・判断力】
（B）科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、自己実現と自己責任の意識を持った自律できる技術者としての素養を身につける。【技術者倫理】【技術者倫理】
（C）数学、物理学、化学、地学、生物学などの自然科学および情報の基礎的学問を身につける。【自然科学・情報処理】【自然科学・情報処理】
（D）都市デザイン工学科の専門領域（共通系、デザイン・計画系、構造系、コンクリート・材料系、地盤系、河川・海岸系）の内容を修得し、社会基盤の整備や都市および地球環境の保全に関する専門知識と技術を身につける。【専門知識・技術】【専門技術・知識】
（E）協調性、指導力、計画的に作業を実施する素養を養うとともに、観察力、理解力、考察力、説明能力を身につける。【実践力】【実践力】
（F）専門的な知識や技術を多角的・総合的に用いて社会が要求する問題を把握・整理し、解決するデザイン能力ならびにプレゼンテーション能力を身につける。【問題解決・プレゼンテーション能力】【問題解決・プレゼンテーション能力】
（G）社会人として基本的なコミュニケーション能力とマナーを身につける。【コミュニケーション能力】【コミュニケーション能力】
（H）グローバル化時代に対応できる国際感覚・国際性を身につける。【国際性】【国際性】
（I）社会要請の変化に対応して、生涯学び続ける姿勢・自己学習の習慣および問題を解決する能力を身につける。【生涯自己学習】【生涯自己学習】

【　　】はディプロマ・サプリメントシステムにおける表示内容

学部 2 1 4 前期・後期

配当単位数合計：－

- 哲学 (2)
- 倫理学 (2)
- 美術史 (2)
- 文学 (2)
- 日本語の歴史 (2)
- 法学(日本国憲法) (2)
- 経済学 (2)
- 歴史学 (2)
- 心理学 (2)
- 日本の伝統と文化 (2)
- 国際関係論 (2)
- 日本の文化と社会Ⅰ (2)
- 日本の文化と社会Ⅱ (2)
- オーラル・コミュニケーションⅡa (1)
- オーラル・コミュニケーションⅡb (1)
- 工学コミュニケーション英語基礎a(1)
- 工学コミュニケーション英語基礎b(1)
- キャリア・イングリッシュⅠa(1)
- キャリア・イングリッシュⅠb(1)
- キャリア・イングリッシュⅡa(1)
- キャリア・イングリッシュⅡb(1)
- 英語プレゼンテーションa(1)
- 英語プレゼンテーションb(1)
- 中国語コミュニケーション (1)
- 中国語と現代中国事情(1)
- 生涯スポーツⅠ (1)

学部 1 前期・後期

- 世界と人間 (2)
- 文章表現基礎 (2)
- ベーシック・イングリッシュa(1)
- ベーシック・イングリッシュb(1)
- オーラル・コミュニケーションⅠa(1)
- オーラル・コミュニケーションⅠb(1)
- 海外語学研修 (2)
- 日本語Ⅰ(2)
- 日本語Ⅱ(2)
- 健康体育Ⅰ(1)
- 健康体育Ⅱ(1)

キャリア形成の基礎

工学の基礎

- 解析学Ⅱ (2)
- 解析学Ⅱ演習(1)
- 微分方程式Ⅰ(2)
- 微分方程式Ⅱ(2)
- 物理学c(2)
- 物理学d(2)
- ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2)
- 知的財産法概論(2)
- 品質管理(2)
- 確率と統計Ⅰ(2)
- 確率と統計Ⅱ(2)
- 流川と環境(1)
- 宇宙・地球・生命－探究演習(1)
- 解析学Ⅰ(2)
- 解析学Ⅰ演習(1)
- 解析学Ⅱ(2)
- 解析学Ⅱ演習(1)
- 線形代数学Ⅰ・Ⅱ(各2)
- 物理学a·b(各2)
- 物理学実験(2)
- 化学(2)
- 地球科学(2)
- 生物科学(2)
- 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各1)
- 流川と人間(1)
- デザイン探求演習(1)

数理科学と教育

- 級数とフーリエ解析(2)
- ベクトル解析(2)
- 線形代数学Ⅱ(2)
- 線形代数学Ⅳ(2)
- 複素解析Ⅰ(2)
- 複素解析Ⅱ(2)
- 応用数学Ⅰ(2)
- 応用数学Ⅱ(2)
- 実践化学(2)
- 地球システムと人間(2)
- 環境生物学(2)
- 人間発達と人権(2)
- 教育原論(2)

その他連携科目

- インターンシップ (2)
- グローバルテクノロジー論a(1)
- グローバルテクノロジー論b(1)
- キャリアデザイン(1)
- OIT概論(1)

分野別到達目標

- グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文学的教養に、もとづく思考・判断力と、豊富な基礎的知識を活用した同演なコミュニケーションが発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。
- 工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用でき、自然環境との共生を念頭においた思考・判断ができるとともに、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を増進する。
- 数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。
- グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。

カリキュラムポリシー

＜工学部カリキュラム・ポリシー＞
工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目履修を取り入れたとえば、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。
1）人文科学，自然科学，情報技術，経営，知的財産および環境共生などに関する科目によって，技術者にめられる幅広い教養を養う。
2）継続した英語教育によって，英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
3）必修・選択（選択必修を含む）科目によって，専門分野の広範な知識を体系的に身につけ，特に重要な科目については，履修機会を徹底して保証する。
4）実験・実習・探求演習(Project Based Learning，PBL)科目によって，自発的・継続的に学修する能力，理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。
5）技術者倫理に関する科目によって，技術者としての使命観ならびに倫理観を養う。
6）学士課程教育の集大成とする卒業研究によって，論文をまとめる理論的思考力，プレゼンテーション能力，コミュニケーション能力など，実践力のある専門的技術者としての必要な能力を養う。
◆注（3）4）5）6）を明細化したものが，各学科のCPとなる

アドミッションポリシー

都市デザイン工学科は、都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤の整備や維持管理にかかわる学理と技術、およびこれに関係するシステムを学び、かつ考究することに情熱を有し、持続可能な地域の発展に貢献することをめざす人物の入学を求めています。

〈求める人物像〉
（1）都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を修得し、考究するのに必要な基礎的知識を有している人
（2）都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
（3）専門性を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲ある人
（4）人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

共通領域

配当単位数合計：34 単位

- 卒業研究
- 建築・都市設計演習 2
- 建設行政 2
- 特別講義Ⅱ 2
- ● 都市デザインエ学演習Ⅱ 2
- ● プロジェクト演習 1
- 特別講義Ⅰ 2
- ● 技術者倫理 2
- ● 都市デザインエ学演習Ⅰ 2
- 上下水道システム工学 2
- 土木情報学 2
- 防災・減災工学 2
- 応用測量学実習 2
- ● 測量学実習 2
- 応用測量学 2
- ● 測量学 2
- ■ CAD／CG演習 1
- 都市デザイン工学入門 2
- 基礎製図 2

デザイン・計画領域

配当単位数合計：18 単位

- 空間情報学 2
- 社会資本計画学 2
- 空間デザイン学 2
- ■ 景観工学演習 1
- ● 景観工学 2

構造領域

配当単位数合計：13 単位

- 反力，断面力，変形などの構造力学で学ぶ内容を習得し，構梁を代表とする構造物の設計，施工ならびに維持管理の手法が説明できる。
- 複合構造・維持管理工学 2
- 都市・地域計画 2
- 交通計画学 2
- 橋梁工学 2
- ■ 構造力学c演習 1
- 構造力学c 2
- 計画学b 2
- ■ 構造力学a演習 1
- ■ 構造力学b演習 1
- ■ 計画学a演習 1
- ● 計画学a 2
- ● 構造力学b 2
- ■ 構造力学a演習 1
- ● 構造力学a 2

コンクリート・材料領域

配当単位数合計：11 単位

- 地盤の力学特性が説明でき，インフラの基礎となる地盤の改良手法や，暴雨・地震などの自然災害からインフラを守る手法（防災・減災対策）が説明できる。
- プレストレストコンクリート工学 2
- 応用コンクリート工学 2
- コンクリート構造学 2
- ■ 鉄筋コンクリート工学演習 1
- 鉄筋コンクリート工学 2
- ● 建設材料学 2

地盤領域

配当単位数合計：12 単位

- 地盤の力学特性が説明でき，インフラの基礎となる地盤の設計や斜面崩壊などの自然災害からインフラを守る手法が説明できる。
- 土構造・道路工学 2
- 地盤施工学 2
- 地盤防災工学 2
- ■ 土質力学b演習 1
- ● 土質力学b 2
- ■ 土質力学a演習 1
- ● 土質力学a 2

河川・海岸領域

配当単位数合計：12 単位

- 水の流れの特性が説明でき，洪水や津波，高潮からインフラを守る手法が説明できる。
- 水系保全学 2
- 海岸工学 2
- 河川工学 2
- ■ 水理学b演習 1
- ● 水理学b 2
- ■ 水理学a演習 1
- ● 水理学a 2

建築士関連科目

配当単位数合計：12 単位

- ※ 3Q 建築環境工学 2
- ※ 建築法規 2
- ※ 建築生産 2
- ※ 建築設備 2
- ※ 建築・都市設計製図Ⅱ 2
- ※ 建築・都市設計製図Ⅰ 2

● 必修科目 ■ 選択必修科目
3Q クォーター科目の開講期
不開講科目

カリキュラムポリシー

都市デザイン工学の各領域に共通する教育プログラムを展開する。

社会や歴史、環境への理解と創造的な発想にもとづいた都市や地域の空間のデザインおよび社会基盤整備の計画に関する教育プログラムを展開する。

構造物の設計に必要な基礎から応用までの構造力学を修得し、構梁などの構造物の設計、施工に関する教育プログラムを展開する。

さまざまな建設材料の基本特性やコンクリート構造の設計に必要な基礎理論の理解と、コンクリート構造の施工、維持管理に関する教育プログラムを展開する。

社会基盤施設を支える地盤や土構造物の設計に必要な土質力学と、道路の設計、施工、維持管理ならびに地盤防災に関する教育プログラムを展開する。

河川・海岸にかかわる防災、利用、環境のための計画、調査分析、設計、維持管理に関する専門知識と技術を身につけるための教育プログラムを展開する。

都市デザイン工学の考え方を基礎として、建築物の設計に関する知識と技術を習得するための教育プログラムを展開する。

101 単位
＜専門分野＞ 22 単位
＜全科目＞ 101単位
65 単位

卒業に必要な単位数 124単位
112 単位
—
26 単位
38 単位
38 単位
10 単位
年間履修上限単位数 44単位

※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない

大学院（博士前期課程）

ディプロマポリシー

・科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、専門技術者として自己実現と自己責任の意識を持った自律できる資質と、総合的な視点から問題解決を主導できる資質を身につけ行動できる。
・社会基盤の整備や都市環境の創造と保全に必要な都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を修得している。あわせて、観察力、理解力、考察力、説明能力等の高度な実践能力を修得し、これらを活用して問題解決に当たることができる。
・研究成果の発表等を通じて、技術者としてのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を修得すると同時に、グローバル化時代に対応できる高度な国際感覚・国際性を身につけ活動できる。

配当単位数合計	9単位	5 単位	配当単位数合計	26 単位	12 単位	4 単位	8 単位	37 単位				101 単位
											＜専門分野＞	＜全科目＞
M2 M1 通年	● 必修科目	● 建築・都市デザイン演習 2	M2 M1 都市デザイン工学コース 後期		空間デザイン学特論 2 社会資本計画学特論 2		海岸工学特論 2 土構造特論 2	コンクリート構造特論a 2	複合・合成構造特論a 2		22 単位	101単位
M2 M1 後期	応用数学特論 2　材料・デバイス開発実務特論 3	● 文献調査Ⅱ 1 建築職能論 1	前期		都市・地域計画特論 2		地盤工学特論 2 河川工学特論 2	コンクリート工学特論 2 維持管理工学特論 2				
			M2 M1 建築学コース 集中	建築インターンシップⅠ(意匠系) 4 ※ 建築インターンシップⅡ(意匠系) 3 建築インターンシップⅢ(意匠系) 2				建築構造実験 2 建築インターンシップⅠ(構造系) 4	建築構造解析演習 2 建築構造設計演習 2	構造計画特論 1 構造力学特論b 2	65 単位	
			後期	建築設計演習IIa 1 建築設計演習IIb 1 建築設計演習III 1	地区計画特論a 1 地区計画特論b 1 建築計画特論IIa 1 建築計画特論IIb 1			コンクリート構造特論b 1 コンクリート構造特論c 1	建築振動特論 2			
M2 M1 前期	応用物理学特論 2　外国語特論 2	● 文献調査Ⅰ 1	前期	建築設計演習Ia 1 建築設計演習Ib 1 建築史特論I 1 建築史特論II 1	建築計画特論Ia 1 建築計画特論Ib 1	建築環境特論Ia 1 建築環境特論Ib 1 建築環境特論IIa 1 建築環境特論IIb 1		建築材料特論a 1 建築材料特論b 1 木質構造特論a 1 木質構造特論b 1	鋼構造特論b 1 鋼構造特論c 1 複合・合成構造特論b 1 複合・合成構造特論c 1	耐震設計特論a 1 耐震設計特論b 1	空間構造特論 2	
分野	数理科目　学際科目 共通横断	専門横断	分野	歴史・意匠分野	デザイン・計画分野	環境分野	河海・地盤分野	構造・材料分野			年間履修上限単位数なし	

カリキュラムポリシー

・社会基盤のデザイン・計画、都市・地域空間の創造と保全に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・建設材料の特性を理解し、それらを利用した橋梁をはじめとする様々な構造物の計画、設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・社会基盤施設を支える地盤や土構造物の設計、施工、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。
・河川・海岸にかかわる防災、利用、環境のための計画、調査分析、設計、維持管理に関する高度な専門知識と技術を身につける。

アドミッションポリシー

都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤施設ならびにそのシステムの整備や維持管理にかかわる学理と技術を、建築学を含む柔軟で幅広い視野で学びかつ深く考え研究することに情熱を有し、持続可能な社会の発展に貢献するデザイナー、プランナー、エンジニアを養成する。

〈求める人物像〉
・都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を習得し、深く考え研究するために必要な基礎的知識を有している人
・都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
・専門分野を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲のある人

学部

ディプロマポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。
≪工学部≫
1）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】
2）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】
3）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】
4）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】
5）社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】
6）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】
◆注「(3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる
≪都市デザイン工学科≫
都市デザイン工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。
(A) 総合的な視点からの基礎学力を修得し、広い視野と確かな判断力を身につける。【基礎学力・判断力】【基礎学力・判断力】
(B) 科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、自己実現と自己責任の意識を持った自律できる技術者としての素養を身につける。【技術者倫理】【技術者倫理】
(C) 数学、物理学、化学、地学、生物学などの自然科学および情報の基礎的学問を身につける。【自然科学・情報処理】【自然科学・情報処理】
(D) 都市デザイン工学科の専門領域（共通系、デザイン・計画系、構造系、コンクリート・材料系、地盤系、河川・海岸系）の内容を修得し、社会基盤の整備や都市および地球環境の保全に関する専門知識と技術を身につける。【専門知識・技術】【専門技術・知識】
(E) 協調性、指導力、計画的に作業を実施する素養を養うとともに、観察力、理解力、考察力、説明能力を身につける。【実践力】【実践力】
(F) 専門的な知識や技術を多角的・総合的に用いて社会が要求する問題を把握・整理し、解決するデザイン能力ならびにプレゼンテーション能力を身につける。【問題解決・プレゼンテーション能力】【問題解決・プレゼンテーション能力】
(G) 社会人として基本的なコミュニケーション能力とマナーを身につける。【コミュニケーション能力】【コミュニケーション能力】
(H) グローバル化時代に対応できる国際感覚・国際性を身につける。【国際性】【国際性】
(I) 社会要請の変化に対応して、生涯学び続ける姿勢・自己学習の習慣および問題を解決する能力を身につける。【生涯自己学習】【生涯自己学習】

【　　】はディプロマ・サプリメントシステムにおける表

分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文学的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した現代コミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然環境と自然を全面においた思考・判断ができるとともに、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を増進する。	数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の教養に寄与する思考・判断ができる。	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。	分野別到達目標	社会基盤構造物(以下、インフラと略記)を計画、設計、施工ならびに維持管理する上で必要な基本事項を説明できる。	社会基盤と都市空間を、創造、改善、活用、保全、保護するための理論と分析・デザインする手法を用いて、実際の事例を説明できる。将来の都市や地域、地区の計画・設計に必要な考え方・手法を説明できる。	反力、断面力、変形などの構造力学で学ぶ内容を習得し、構築を代表とする構造物の設計、施工ならびに維持管理の手法が説明できる。	代表的な建設材料であるコンクリートや鉄筋の力学特性が説明でき、コンクリート構造物RC、PCの設計と照査、施工ならびに維持管理の手法が説明できる。	地盤の力学特性が説明でき、インフラの基礎となる地盤の改良手法や、変形・地震などの自然災害からインフラを守る手法（防災・減災対策）が説明できる。	水の流れの特性が説明でき、洪水や津波、高潮からインフラを守る手法が説明できる。	建築物の設計・施工に関連する法規、施工技術、空調や音響等の建築環境および建築設備について説明できる。	卒業に必要な単位数124単位
配当単位数合計	–	–	–	–	配当単位数合計	34 単位	18 単位	13 単位	11 単位	12 単位	12 単位	12 単位	112 単位
2 3 4 通年	哲学 (2) 倫理学 (2) 美術史 (2) 文学 (2) 日本語の歴史 (2) 法学(日本国憲法) (2) 経済学 (2) 歴史学 (2) 心理学 (2) 日本の伝統と文化 (2) 国際関係論 (2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーラル・コミュニケーションⅡa (1) オーラル・コミュニケーションⅡb (1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) 工学コミュニケーション英語基礎b(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa (1) 英語プレゼンテーションb (1) 中国語コミュニケーション (1) 中国語と現代中国事情 (1) 生涯スポーツⅠ(1) 生涯スポーツⅡ(1)	解析学Ⅲ (2) 解析学Ⅲ演習 (1) 微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) 物理学c (2) 物理学d (2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営 (2) 知的財産法概論 (2) 品質管理 (2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 淀川と環境 (1) 宇宙・地球・生命－探求演習 (1)	級数とフーリエ解析 (2) ベクトル解析 (2) 線形代数学Ⅲ (2) 線形代数学Ⅳ (2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学 (2) 地球システムと人間 (2) 環境生物学 (2) 人間発達と人権 (2) 教育原論 (2) 道徳教育 (2)(～2018)	インターンシップ (2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)	通年	卒業研究								—
4 前期・後期									ブレストレスコンクリート工学 2			※ 3Q 建築環境工学 2 ※ 建築法規 2 ※ 建築生産 2	26 単位
3 前期・後期					4 前期・後期	建築・都市設計演習 2 特別講義Ⅱ 2 ● 都市デザイン工学演習Ⅱ 2 特別講義Ⅰ 2 ● 都市デザイン工学演習Ⅰ 2	建設行政 2 ● プロジェクト演習 1 ● 技術者倫理 2 上下水道システム工学 2	空間情報学 2 空間デザイン学 2	社会資本計画学 2 都市・地域計画 2 交通計画学 2	複合構造・維持管理工学 2 積算工学 2	応用コンクリート工学 2 コンクリート構造学 2 ■ 鉄筋コンクリート工学演習 1 鉄筋コンクリート工学 2	土構造・道路工学 2 地盤施工学 2 地盤防災工学 2	水系保学学 2 海岸工学 2 河川工学 2	※ 建築設備 2 ※ 建築・都市設計製図Ⅱ 2 ※ 建築・都市設計製図Ⅰ 2	38 単位
2 前期・後期						土木情報学 2 防災・減災工学 2 ● 測量学実習 2	応用測量学実習 2 応用測量学 2	■ 景観工学演習 1 ● 景観工学 2	計画学b 2 ■ 計画学a演習 1 ● 計画学a 2	■ 構造力学c演習 1 構造力学c 2 ■ 構造力学b演習 1 ● 構造力学b 2	■ 建設材料学 2	■ 土質力学b演習 1 ● 土質力学b 2 ■ 土質力学a演習 1 ● 土質力学a 2	■ 水理学b演習 1 ● 水理学b 2 ■ 水理学a演習 1 ● 水理学a 2		38 単位
1 前期・後期	世界と人間 (2) 文章表現基礎 (2) ベーシック・イングリッシュa (1) ベーシック・イングリッシュb (1) オーラル・コミュニケーションⅠa (1) オーラル・コミュニケーションⅠb (1) 海外語学研修 (2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)	解析学Ⅰ (2) 解析学Ⅰ演習 (1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅱ演習 (1) 線形代数学Ⅰ・Ⅱ(各2) 物理学a・b (各2) 物理学実験 (2) 化学 (2) 地球科学 (2) 生物科学 (2) 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各1) 淀川と人間 (1) デザイン探求演習 (1)		キャリアデザイン (1) OIT概論(1)	1 前期・後期	● 測量学 2 都市デザイン工学入門 2	■ CAD／CG演習 1 基礎製図 2			■ 構造力学a演習 1 ● 構造力学a 2				● ● 必修科目 ■ 選択必修科目 3Q クォーター科目の開講期 不開講科目	10 単位
分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理科学と教育	その他連携科目	分野	共通領域	デザイン・計画領域	構造領域	コンクリート・材料領域	地盤領域	河川・海岸領域	建築士関連科目	年間履修上限単位数44単位

カリキュラムポリシー

≪工学部カリキュラム・ポリシー≫
工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。
1）人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。
2）継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
3）必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。
4）実験・実習・探求演習（Project Based Learning、PBL）科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。
5）技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命観ならびに倫理観を養う。
6）学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。
◆注「(3)(4)(5)(6)」を明細化したものが、各学科のCPとなる

| カリキュラムポリシー | 都市デザイン工学の各領域に共通する教育プログラムを展開する。 | 社会や歴史、環境への理解と創造的な発想にもとづいた都市や地域の空間のデザインおよび社会基盤整備の計画に関する教育プログラムを展開する。 | 構造物の設計に必要な基礎から応用までの構造力学を修得し、構築などの構造物の設計、施工に関する教育プログラムを展開する。 | さまざまな建設材料の基本特性やコンクリート構造の設計に必要な基礎理論の理解と、コンクリート構造の施工、維持管理に関する教育プログラムを展開する。 | 社会基盤施設を支える地盤や土構造物の設計に必要な土質力学と、道路の設計、施工、維持管理ならびに地盤防災に関する教育プログラムを展開する。 | 河川・海岸にかかわる防災、利用、環境のための計画、調査分析、設計、維持管理に関する専門知識と技術を身につけるための教育プログラムを展開する。 | 都市デザイン工学の考え方を基礎として、建築物の設計に関する知識と技術を習得するための教育プログラムを展開する。 | 年間履修上限単位数44単位 |

アドミッションポリシー

都市デザイン工学科は、都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤の整備や維持管理にかかわる学理と技術、およびこれに関係するシステムを学び、かつ考究することに情熱を有し、持続可能な地域の発展に貢献することをめざす人物の入学を求めています。

〈求める人物像〉
（1）都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を修得し、考究するのに必要な基礎的知識を有している人
（2）都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
（3）専門性を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲ある人
（4）人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない

【2018年度入学生】C